

# ¡Hola, amigos!

第086号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝04:00時から08:00時の間に実施します。

臨時休刊の場合は、なるべくその前の週にお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年11月18日 カァディスにてR y N

---

## ☆今週号のトップヘジャンプ

---

現在有効なバック・ナンバーは085号(11月11日)、084号(11月04日)

083号(10月21日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。

---



## 「三枚目のタルヘタ」の巻

皆さんこんにちは。先週、秋も深まった、と言ったばかりなのに、今週はもう冬の気配濃厚です。13日の日曜日、テレビではスペインの北半分各地の雪景色を流していました。朝起き抜けに、それまでひと気のなかった居間の温度計を見ると、18度まで下がっていました。この秋始めての事です。スペインの秋のなんと短いこと。

でも、寒いと感じたのも朝のうちだけ、昼過ぎると日が差し込んで温室になります。さて、タルヘタ tarjeta とはカードのことで、あらゆるカードの総称です。例えばサッカーのイエロー・カードはタルヘタ・アマリージャ tarjeta amarilla (黄色のカード) だし、国鉄の高齢者割引カードはタルヘタ・ドラダ tarjeta dorada (金色のカード) です。いわゆるカードサイズのもので大抵タルヘタ・〇〇〇〇と言います。

タルヘタ・ポスタル tarjeta postal は特別な例で、これは絵葉書のこと。クレジット・カードやデビット・カードもタルヘタですが、これは私達には用無し、日本のプロバイダーへの支払い以外ではカードを使ったことはないんです。キャッシュを持つのは危険だと、旅行案内に書いてあるのを見るといつも首を傾げたくくなります。私達のように小額の現金のみ持つのであればソレが一番安全と思っています。大きな額は持とうにも持てないだけですけどね。

ここで言うタルヘタはタルヘタ・デ・レシデンシア tarjeta de residencia (居住許可証) のことで、これも普通のカード・サイズです。現在のタルヘタの有効期限は来年一月なので。そろそろ更新申請の準備をと思い、先日役所に必要書類と申請時期について聞きに行ってきました。



これまでは国家警察の分署が申請受付の窓口でしたが、去年、政変があったため、役所の編成・分担も少し変わったらしい、今度は国家警察ではなく労働省の出先機関のビルにある外国人労働者のためのオフィスへ行くように言われました。

日本語のスペイン情報誌によると、これまで内務省管轄だった移民問題は労働社会省に移牒されたそうです。上がその労働省の建物ですが、その一角に次のような看板をつけたオフィスがあってそこが私達外国人の居住許可申請手続きをする所でした。

この看板を良く見るとこの事務所は労働社会省 Ministerio de Trabajo y Asuntos Sociales 所属ではなく Ministerio de Administraciones Públicas 行政省の出先機関であるらしい。正面にはこれと同じ意匠の労働社会省の看板がついていました。

この辺がどうもよく分からないところです。始めは国家警察で労働省へ行け、と言われたので、この建物の正面から入って聞いたら、それはアッチだと、裏口のような所にあるこの事務所を教えられました。私達自身、移民でもないし、職業を持っている訳でもないのに、労働省とはヘンだなーと感じていたのです。



日本語情報誌が言っていたように移民問題が内務省管轄でなくなったことは確かなようですが、その全てが労働社会省に移牒されたわけではなく、私達のような職業を持たない一時的居住者は行政省管轄となったのかも知れません。

まあ、とにかく、この事務所で申請は受け付けてもらえることは分かりました。前の住所ベナルマデナ管轄の国警分署は隣町のトレモリィノスにありましたが、そこではタルヘタの申請をする外国人が部屋にあふれていました。

その分署の管轄区域内では住宅開発がコレでもかというほどでしたし、その辺は地理的にコスタ・デル・ソルの中心ともいえる場所ですからホテルや飲食店の数は限りがなく膨らみ続けていました。当然、建設業やサービス業に従事する低所得層の外国人がアトからアトから入り続けていたはずです。

三年前、入国後最初のタルヘタ申請の時はソウでもなかった窓口の混雑が、一年後には行列が室内では収まりきれないほどに膨れていました。

ところがカアディスの役所では、ホントにここでいいのかと不安になるくらい人がいませんでした。たまたま時期が閑散期だったのか時間帯が良かったのか、窓口係員は二人、先客は中南米から来たらしい女性一人だけで、部屋に入るとすぐ、どうぞ、と窓口へ呼ばれました。

このことから、カアディスという町がいかに外国人居住者が少ないかということが想像できます。カアディス県でも少し内陸に入ると農地ばかりですが、この辺の農業は大勢の手作業を必要としないものが多く、都市部以外でも外国人労働者の数は比較的少ないのだと思います。それとも、やはり労働移民はここではなく労働社会省の方の事務所で手続きするのか？そこはヤッパリ混雑してるのかな？

さて、今度は何年の居住許可が出るか、最初のは1年、2回目は2年、3回目の今回

は3年だと言う人もいるし4年・5年と言ってる本もあるようではつきりしません。

1・2ときたんだから、次は3年と言うのが順当なところでしょう。

建前としては永住を認めないらしいですが、こうやって更新を続けてゆくうちに当人がクタバれば事実上永住したことになりますね。ソレまで健康とフトコロが持ちこた

えればのハナシ、ですけどね。

ところで、先日また、領事部から「最近の邦人被害例」というメール情報が入ったの

で紹介します。10月中にスペイン国内で報告された例は全部で11件。

しかし、パスポートや帰りの航空券など、帰国に際してすぐ困るような被害にあったのでなければ届け出ないケースもありうるので、実件数はコレをはるかに上回っている

であろうコトは容易に考えられます。

とにかく、その11件のうちの5件が、足元に置いたバッグを置き引きされた、と判で押したような被害例です。更に食事中または写真撮影中に手近なところに置いたバ

ッグをやはり置き引きされたケースが3件。

実に11件中8件までが置き引き被害です。なにか、その様子が目に見えるような気がします。要するにいったん日本人旅行者だと目星をつけたが最後、ドロ的は一日中

付きまとしてスキをうかがっているに違いない。

一方、世界一ノドカな国から来た、人を疑うことを知らない旅行者は、貴重品のギッシリ詰まったバッグを無造作にその辺に置いて食事なり撮影なりの楽しみに集中して

しまうんですね。まさに、赤子の手をひねる、ようなモンでしょう。

ナンタル無防備。こうなると被害者に同情してばかりもいられません。この無防備さが日本人与し易しという印象をドロ的シンジケートに持たせたとしたら、そのほかの

平均的注意力を持った日本人は、スキを見せなかったがゆえに、置き引きというもっとも安易な犯罪以上の被害、例えば首絞め強盗などにやられるのかも知れません。

こう考えると、日本人が狙われるのは多数のアマリニ無防備な日本人が原因のタネを

蒔き散らしいるとも言えるのではないのでしょうか？

皆さんも、どうぞ外国旅行の折はお気をつけください。もっとも、見知らぬ人に写真を撮ってやると言われて、自らドロ的君にカメラをやってしまうような人もどこかに

いましたネ。でもコレは次元の違う話ですから・・・、とは言い訳。\*\*\*



---

## 「十年一日メニュー」の巻

---

皆さんの朝食のスタイルはどんなですか？

ご飯に味噌汁、のり・タマに干物、という伝統的スタイル？ それともジュース、カフェ・オ・レに、トースト、ベーコンエッグ・焼き野菜、ですか？ または、その折衷と言う方も多いと思います。

ナヌ？ アサメシぬき？ そりゃ、いけませんよ。朝はぜひともしっかり食べなくちゃ。朝食抜きでそのまま通勤地獄を潜り抜け、ハード・ワークの末のドカ食い、こりゃ相撲取りを肥やす一番確実な方法なんだそうです。勿論、相撲取りは食べた直後では激しい稽古はできっこないから、そうせざるを得ないんでしょうけどね。

三食バランスよく食べる。これは私達が常に守ってきた健康法です。とはいえ現役の頃は一緒にいた期間のほうが断然短く、今やとそれを取り戻しつつある二人ですから「私達が常に」と言うのは「一緒にいた短い期間は常に」と言う意味ですが、それと同時に、二日酔いで、朝、食べられない事がないように、または、たとえ二日酔いの時も、無理してでも朝を抜かないように努めたということでもあります。

とにかく、朝、しっかり食べる、これはやはり健康の元と言って間違いないと確信しています。では、その私達の朝食スタイルはというと、次の通りです。

野菜ジュースとオレンジ・ジュースを6対4でミックスしたもの200ml + レモン1/4個分、プレーン・ヨーグルト120g、シリアル約25g + ミルク120ml  
そして特性野菜スープをスープ・カップにたっぷり一杯約230g。

このスタイルをもう十年続けています。毎日、多少の変化はあります。例えばシリアルの種類とか、野菜ジュースのメーカーとか、ヨーグルトにダイエット・ジャムや蜂蜜を混ぜてみたり、フルーツを刻み込んだり・・・。

しかし、変わらないのは最後の野菜スープ。勿論、使う野菜は季節により多少の違いはあるし、スペインに来てから野菜は当然変わりました。でも、野菜スープは野菜スープ、ヨソでは食べたことがないウチの味、という点に変わりはありません。



ハハハ、スープじゃなく煮野菜ですねこりゃ。右は「あの」シラントロ又はコリアンダー又は香菜、即ち阿川佐和子さんも大好きなシャンツァイ。それにライム。

左のカップにシラントロを刻んでふりかけ、ライムを搾りかけて・・・。

何日続けても飽きることがありません。何日どころか十年一日このメニューでいまだに飽きること知らずにいるんです。最近十年の我が家へのオーバーナイトのお客様には、翌朝、有無を言わずコレを食べて頂いていますが、リップ・サービス半分とし

ても概ね好評です。シラントロだけは無理強いはしてませんけどね。

野菜ジュースに始まって野菜スープでしめるこの朝食メニュー、主眼は多品目と通りの良さ。これも健康には欠かせない要件ですね。うまく出てくんなきゃウマク食べられるわけありません。シリアルと多種多様の野菜で繊維は十分、野菜ジュース、ライム、シラントロでビタミン群、乳製品でカルシウムもOK。しかも低カロリー。

どうやら、純日本のご飯に味噌汁、のり玉に干物、にしても、カフェ・オ・レ、ベーコン・エッグ、スタイルにしても、我が家のメニューにしても、365日続けても飽

きが来ない食べ物は、「途方もなくウマイ」というものではイケナイらしい。

勿論、まずくちゃハナシになりませんが、断じて「うまさぎ」てはいけない。長続きするのは、そういうもののようなので、何でも・・・。しかし、そうは言うものの、ヤッパリそれなりの工夫は必要です。まず、毎日のことですから健康に害のあるよう

なものは一切ナシでなければなりません。ソレと「ちょっぴりウマく」が肝心。



スペインに来てからの、その「ちょっぴりウマく」のネタの一つはこれ。安物のハモン・セラーノの小さいブロック、コレをタコ taco と言います。タコには色々な意味があって、多分、皆さんがご存知なのはメキシカンのタコスでしょう。

ここでは角切りと言う意味です。コレを薄く切って、更に千切りにします。小さい賽の目でもいいんですが、ハモン・セラーノは固いので柔らかに煮込んだ野菜と食感が合いません。その固い歯ざわりがいいという人は賽の目でもいいでしょう。

とにかく、ハモンの風味とコクが淡白な野菜スープを一味複雑にしてくれます。ハモンがなければなくて、何の問題もありません。日本ではありとあらゆるスープ・ストックが市販されてますね。お好みしだい、そのどれを使ってもそれなりの美味しさは出る筈です。このスープの旨味はスープ・ストックの問題ではなく、多種類の野菜そのものからだと思っています。決して調味料を入れすぎないように・・・。

では、どういう野菜を使うのか、というと、もうコレには何の制限もありません。とにかく、手当たりしだいありとあらゆる野菜を小さく切り刻んで煮込む、種も仕掛けもないんです。ネックは刻む作業が大変。Nはバネ指になりそうとこぼします。

野菜刻み用の道具を買ってみたんですが結局余り役立たずで、手で刻んだほうが手っ取り早い。人間の手は本当に素晴らしい。アタマの中身を老いさせないためにも手先を良く使ったほうがいいらしいですね。





風味とコク出しに強いもう一つの味方はこれ。ハモン・セラーノ入りのと言うより、ハモン・セラーノ風味のと言ったほうが当たっているでしょうが、ハモン味の安物ソーセージ。前者安物ハモン・セラーノもこのハモン味ソーセージも、肉つけそのものを食べるわけではなく、あくまで風味とコク出しに使うだけですからゴク少量です。ウチで二人前のスープに使う量はこの半分、全体量の、じゃありませんよ一本の半分4～5センチ約20g。ハモンならその半分10g。どうです、ヘルシーでしょ。これらをとにかくヨーク煮込む、写真のものは見栄えを気にして進行中の物を途中で火からおろしたもので、実際はミバは捨ててクタクタになるまで煮込みます。現役、しかもダブル・インカムの方には、朝、刻む作業も煮込みの時間も到底ないと思います。それなら5日分作って小分けに冷凍してはどうでしょう。さあ、では具体的にどんな野菜を使っているかといえば、その折々、その時期に安く買える野菜全部です。例えば写真のものは次のようなものが入っています。まず、生姜を少量のオリーブ油で炒めて、タマネギ、人参、キャベツ、ポロねぎ、いんげん、茄子、赤ピーマン、青ピーマン、セロリ、ピミエント・イタリアーノ(しし唐の巨大なもの)、グリーン・ピース。それに前記のシラントロとライム。日本ならもっと多彩に色々な野菜を使えるでしょう。まあ、出来れば少なくとも10種は使いたいですね。パートナーがなにか少々嫌いな野菜があっても委細かまわずチ込んじまえばいいんです。どうせ分かりっこないから・・・\*\*\*

---

## 「ソル・ポニエンテ」の巻

---

♪秋の夕日に・・・♪ と唄にも歌われるほど、澄んだ秋空をバックに沈んでゆく夕日は独特の雰囲気を持っているような気がします。

カァディスの夕日の素晴らしさは、これまでもシツコイくらい言い続けてきましたが、何度言っても言い尽くせないほど、それはそれは素晴らしい。皆さんにもその素晴らしさを少しでもおすそ分けできたらと、今週は夕日オン・パレードとしました。

私達がカァディスに移り住んだ理由はいくつかありました。

イギリス租界のようになっていた最初のコスタ・デル・ソルの町から逃げ出したかったことが一つ。それよりももっと大きい理由としては水平線を広く見回したいと言う

こと。更に大きな理由は毎日沈む夕日を眺めて晩酌をやっつけたい！！

そして、カァディスへ引っ越して丸一年たった今、ほぼ100%の満足感を得ています。その大方の部分はやはり夕日の沈む海を毎日眺められること、これに尽きます。退職後の船乗りにとって、またとないロケーションであることは間違いありません。

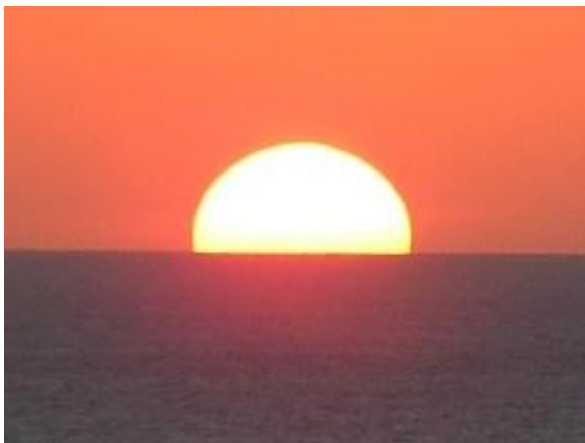
ソル・ポニエンテについては何度かお話したと思いますが、ソル sol は太陽、ポニエンテ poniente は西。訳語をそのまま並べれば「西日」ですが、ここはやはりちょっと詩的に「夕日」または「落日」と解釈してください。

水平線やそこに沈む夕日を眺めることが、ナンボのモンじゃ、という人がいたって何の不思議もありませんが、そういう人になぜイイカを言葉で説明するのは至難の業。

時々浜を散歩していて挨拶を交わすようになったRと同年輩のオジは、ウチから二百メートル位南のやはり海に面した11階に住んでいます。退役スペイン海軍軍人らし

いですが、海が見える、という理由だけでそのピソを買ったようです。

いつか浜で立ち話をした時、俺のところからは180度海が見えると嬉しそうに言っていました。180度とは比喩的に言ったもので、実際は170度ぐらいのはずですが、コトほど左様に水平線が広く見えるということにこだわる気持ちは良く分かりません。ウチの水平線は残念ながら140度、負けてますね。でも、それで十分満足。



この4枚は快晴の日の落日の様子。こんな風に太陽の上辺が水平線に完全に沈むまで一切雲が邪魔しない日はソウそう多くはありません。

左上がいつも言う天文日没=真日没の瞬間を少し過ぎたところ。タイミングとしてはほんの数秒ですから日没方位角を観測するには許される誤差です。Rが若い航海士だった頃はこの瞬間の太陽の中心の方位を観測してコンパス(羅針盤)の誤差を測定したのです。

天体出没方位角表というものがあって、例えば太陽を、何月何日何時何分何秒に緯度何度何分何秒、経度何度何分何秒の地点で、真日出没時、即ち太陽の中心が真水平にかかる時観測すれば、これコレの方位になる筈、ということが分かるんです。

実際にコンパスで観測した結果が表から計算したとおりでなければ、その差はコンパスの誤差ということになります。昔の人の知恵は凄いですねー。でもこういう古人の知恵は航海術に関する限り廃れました。現在はGPS、あのカーナビで全てチョン。海のロマンは限りなく忘れられ、老水夫はグラス片手に落日を眺めては昔を懐かしむのみとなりました。仕立て屋・炭鉱夫・(外航の)船乗りはもはや不要か。



こんな風に上が隠れてしまったり、下が見えなくなったり、がむしろ普通。  
上空は晴れているのに日没前後の水平線付近には雲が掛かることが多いです。  
日没前後は気温が急変するので雲が発生し易いんですね。また、水平線付近の空は雲を横から眺めることになります。真上の雲なら隙間があれば青空が見えますが、同じ条件でもソレを横から見れば隙間はなくなってしまいますね。見る角度の問題。



何人かの読者の方からグリーン・フラッシュを見たか？という質問を受けました。残念ながらここではまだ、コレだ！というほどのは見えていません。Nは半信半疑。  
現役の頃、船上でよく見たのはいずれも熱帯域を航行中のことだったと思います。  
グリーン・フラッシュを見るためには太陽光を屈折させるための、ある程度の湿度が必要で、多分カアディスでは夏でも湿度が低すぎるのだらうと思います。  
左の太陽の上辺に黄色の円弧が見えますね。この状態で太陽が沈んでいって、上辺が水平線に沈む瞬間、太陽光のうち緑など波長の短い光がより大きく屈折されて、一瞬緑の閃光が見えるのです。右の太陽も上から掛かった雲(細かな水滴)のため光が屈折してスペクトルが見えてますね。虹もコレとおなじです。





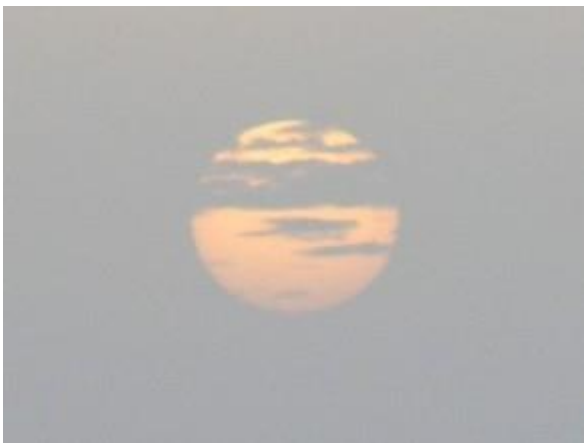
旭日旗みたいなのと言うか、後光が差しているようなのと、そのひっくり返り。  
ザ・ライジング・サン The rising sun は日出づる国ニッポン。旭日昇天は海軍旗にも  
なりましたが、なんのコーナーない、こうしてみれば夕日だって旭日と区別はつきま  
せんね。旭日旗、実は落日旗だったか？



ここの海は水平線一本が値打ち。時々通過する出船・入船のほか動きのあるのはカモ  
メぐらいか、と思いきや、空も海も365日、24時間、時々刻々表情を変えます。  
ソレばかりを見つめてボーっとしてしまわないよう気をつけなくちゃ。



夕日に向かって出港のクルーズ客船。行く先はラス・パルマスか、サンタ・クルース・デ・テネリフェか？ 前を通り過ぎる船はコンテナ船ならアルヘシラス方面、即ちジブラルタル海峡へ向かう船またはその逆。クルーズ客船の半数はカナリーへ、又は、から。アトの半数は地中海で、やはりジブラルタル方面の行き来です。



同じ雲が掛かるにしても地味ヘンあり、ド派手あり。左は雨模様の日に一瞬顔を出したところ。右はドピーカンの日我突然そこだけ雲が掛かった一瞬。



カナリー方面へ向かう旅客機。マドリードからもセビージャからもほぼ同じルート。



これは、もうノーガキ不要、デスネ。





金色の残照。でも裏通りはそろそろ、誰そ彼。ネ、イイゾ、イイゾはほんとでしょ？



いかがでしたか？ 早く見に来て下さい。こっちがクタバラないうちにネー。\*\*\*